災害を理解する
災害時医療支援における薬剤師
その３

互いの「意思疎通と助け合い」が成果へ

星ヶ丘厚生年金病院薬剤部薬剤主任　森田　貴子

あの甚大な被害をもたらした東日本大震災から１年２カ月が経った。日本だけでなく世界中の人たちが、被災した人たちに対して何か役に立つことをしたいと思った。私もその中の１人であった。私がなぜ災害医療に興味を持ち、ＪＤＲ（Japan Disaster Relief：国際緊急援助隊）に登録し登録後に感じたこと、そして東日本大震災に対する医療活動について述べる。

最初に“災害時に役に立てるようになりたい”と思ったのは、2004 年のスマトラ沖地震にＪＤＲから派遣される人たちの姿をニュースで見たときである。動機はとても単純であった。その後、医療薬学会のシンポジウムでスマトラ沖地震の活動報告を聴講して、薬剤師も派遣されることを知り、興味から実行に移すことにした。

ＪＤＲ登録には導入研修を受ける必要があり、登録後も中級研修で災害医療に関する研修を受講する。研修は、薬剤師だけでなく各医療職（医師、看護師、放射線技師、検査技師）の講義からロジスティック（注）まで災害時に関わる全ての職種の講義の受講が可能である。私は、臨機応変に活動することができるように他職種の講義にも積極的に参加している。

登録後に分かったことだが、ＪＤＲの派遣時はチームの中で薬剤師は１人である。派遣時に役に立つためには、ジェネラリスト薬剤師である必要性をより強く感じた。

震災 11 日目に、全国社会保険協会連合会からの要請で当院からも医療支援・医療チームとしての派遣が決定した（当院は全国社会保険協会連合会の関連病院である）。平成 23 年３月 29 日から４月４日の１週間、医療支援活動を行った。

われわれは日常業務をバリバリこなすが、災害時における医療の経験のない素人チームであった。その中で私が心がけたことは“チームワーク”であった。これは、ＪＤＲの研修から学んだことの１つであった。

南三陸・医療統括本部の指示で南三陸の入谷地区で巡回診療を行うこととなった。入谷地区は地震・津波による被害は少なかったものの、ガソリン不足の影響で医療難民状態の地区であった。10 区に分かれており、午前と午後にそれぞれ１つの区の集会所に開設した臨時の診療所で、診療から薬剤配布までを行い、必要に応じて往診も行った。

１週間の活動で 250 人を診察した。常用薬が切れ、花粉症や風邪が主な疾患だったが、意識低下を認め本部への救急搬送や創洗浄も行った。１日の流れは表を参照してもらいたい。新聞等においても報道されていたが、われわれの活動も同様で、薬剤師の業務が多岐にわたり、ボトルネックとなっていた。このことは、活動初日のミーティングで問題点として挙がり、話し合いの結果、薬袋作成などはメンバーからの協力を得ることになった。

お薬手帳が広く認知され、活用されていたため、薬歴を把握することはあまり苦労しなかった。しかし、患者さんの中には自宅が津波の被害に遭われ、入谷地区に避難されてきている方もいた。瓦礫化した自宅から“お薬手帳を見つけなければ”と思い探され、ボロボロになったお薬手帳を持ってこられた方もいた。南三陸の薬剤師の方々の働きに頭が下がる思いであった。

活動当初は医薬品の種類や在庫数が十分ではなかったため、処方薬や処方日数の制限がかけられており、薬剤変更はやむを得ないことであった。しかし、医療チームの活動により、誤薬になってはいけないと考え、薬品名や用法・用量が変更された場合は、できるだけ分かりやすく説明するよう心がけた。

対応に苦労したのは、小児の薬剤であった。ライフライン不通のため、粉薬の秤量、分包ができなかった。徳洲会の医療チームから小児用の風邪セットが提供されていたが、潤沢ではなく、年齢や症状から他の薬剤への変更を考えざるを得ない状況だった。本部の在庫品目は日々追加・変更されていたため、本部の薬剤師に相談し処方変更を行った。ＯＴＣを使用したり、分包品を年齢に合わせて半量等に服用量を変更したりと、急務を凌いだ。しかし、事前の情報収集をしっかりと行っていれば、上皿天秤（あるいは電池式の電子天秤）と薬包紙があれば対応できたことではないかと反省した。

活動内容は日常業務と大きく変わることはなかったが、限られた人員、薬剤や資源の中での活動のため、お互いの意思の疎通を図り、助け合うことが必要であり、薬剤師としての知識や経験をいかに生かせるかが活動の成果につながると感じた。（おわり）

タイムスケジュール

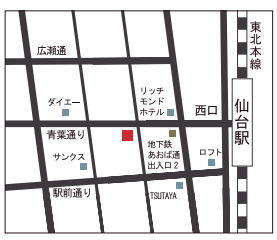
	医師	看護師	薬剤師
６：３０	宿舎出発		
７：２０	南三陸・医療統括本部のあるアリーナ到着		
７：３０	ドクターミーティング参加	衛生材料等の補充	薬剤の補充等
８：００	アリーナ出発（前日の午後診療時に配布できなかった薬剤を集会所まで配達）		
９：００	診療開始（集会所と往診組に分かれる）		
１１：３０	診療終了		
１２：００	昼食		午前診療で調剤できなかった処方の調剤と薬剤の補充
１３：００	アリーナ出発（午前の診療時に配布できなかった薬剤を集会所まで配達）		
１３：３０	診療開始（集会所と往診組に分かれる）		
１６：００	診療終了		
１６：３０	アリーナに帰着 本部へ活動報告	衛生材料等の補充	午前診療で調剤できなかった処方の調剤と薬剤の補充
１７：００	アリーナ出発		
１８：００	宿舎到着 ミーティング：薬剤の過不足の確認、カルテ整理、連絡事項等 ＊現地対策本部から出されていた薬剤払い出しに関する制限（薬剤の種類、日数）の緩和通達と診療内容に合わせて、持参する薬剤の種類、数量の検討		

注：ロジスティック（後方支援）とは、医療活動に関わる通信、移動手段、医薬品、生活手段等を確保することをいう。その他、医療活動に必要な連絡、調整、情報収集の業務等も含む。―ＤＭＡＴ活動要領―

杜の都仙台に、薬学ゼミナール仙台教室
Igaku Academy Since 1977
今春開校！！

教育を通して東北を元気にしたい… 私たちが出来るお手伝いは教育を提供すること。
地域に根差した教室作りをめざし、東北の元気な薬剤師を沢山輩出していきます。

■ 開校コース
全日制１年コース　6月1日～国家試験直前期
全日制半年コース　9月1日～国家試験直前期
前へ進もう！力強く
＊スターティング講座【各コース事前無料講座】を実施します。
＊上記コースは全国の教室で実施します。



〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央3-2-1
青葉通プラザ2F
TEL：022-224-8903 / FAX：022-224-8904

仙台教室スローガン
一、共に声を掛け合える教室 二、一緒に今できることを頑張る教室 三、地域に根差した教室

●薬剤師国家試験対策 参考書（青本）
青本×WEB
よくある質問を、薬ゼミ講師が動画で解説！
「実務」を重視
すべてのテキストが実務テキスト（青本⑨）とリンク!〉
症例問題集
薬学実践問題対策として、症例問題集（青本⑩）を追加!〉
＊改訂版：好評発売中！

●薬剤師国家試験対策 問題集
〈領域別既出問題集改訂版・第 97 回既出問題集〉
領域別既出問題集（全９冊）
・第89～96回までの過去８年分の問題を出題基準に沿って領域別に分冊しました。
第 97 回既出問題集
・最新の国家試験問題を1冊にまとめました。
＊2012年６月発刊予定

Yakugaku Seminar
学校法人医学アカデミー
薬学ゼミナール
フリーダイヤル 0120-77-8903
ホームページ http://www.yakuzemi.ac.jp
Eメール info@yakuzemi.ac.jp 薬ゼミ 検索
●仙台教室 NEW　●大阪教室＊6月1日駅近へ移転予定　●online教室 NEW
●川越教室　●池袋教室　●お茶の水教室　●福岡教室
●渋谷教室　●八王子教室　●名古屋教室　●神戸教室